

平成 25 年 10 月 30 日

平成 25 年度 大阪府立茨木工科高等学校（全日制の課程）第 2 回学校協議会議事録

日時 平成 25 年 10 月 30 日（水）
15:00～17:00

場所 茨木工科高等学校 会議室

出席者 委員長 1 名、委員 2 名、校長、事務部長、教頭（学校協議会事務局長）
首席 3 名（事務局員 2 名）、生徒指導主事、機械系主任、電気系主任、
環境化学システム系主任、初任者 3 名

協議

1．開会挨拶（校長）

今回の協議では、さまざまな取り組みの進捗状況、中間報告をさせていただく。

6 月は授業見学を行ったため協議時間が限られたが、本日は、十分時間をとることが可能のため、年度末に向け提言をお願いしたい。

2．協議委員委員長あいさつ

精一杯務めさせていただく。また、日ごろから本校教員の教育活動に対する努力を感じ、我々も元気をいただいている。その内容を聞くことが楽しみである。また、進捗状況について提言をさせていただく。

3．出席者紹介

協議会委員、学校事務局員がそれぞれ自己紹介。

4．平成 25 年度 前期での本校教育活動について協議

（1）平成 25 年度の学校経営方針について

（校長）第 1 回目に示した学校経営計画から中間報告を行う。

本年度の取組みと自己評価は空欄であるが年度末に書き入れる。

具体的な取組みの計画と内容について現在どのような状況にあるか報告する。

1 確かな学力の育成

ア 数学で少人数指導、習熟度別学習を取り入れた。

昨年度までは出席番号でクラスを 2 つに分けていたが、今年度からは第 1 回考査の結果から 2 つに分けている。

学力に課題を抱えている生徒の指導に力を入れている。

学習意欲の低い生徒の指導で教材の工夫などが今後の課題である。

イ 転学、退学者向けのアンケートを作成した。

従来のアンケートを改善し作成し、転学、退学した生徒に実施している。

現在の転学、退学者は 21 名となっている。昨年と同じペースである。

多様な課題を抱えた生徒が多くなっており、中退率の改善は困難な状況である。

粘り強い指導を続け、一人でも多くの生徒が進級、卒業できるように努力していく。

ウ 今年度から実施している学び直しの授業
工業入門について習熟度別授業を行っている。
課題のある生徒に対する指導に努力している。

エ 授業公開

昨年度は 11 月に 1 回のみ実施したが、本年度は 6 月と 11 月の 2 回実施とした。
一定の期間を設け、実施している。6 月は終了しており、11 人の教員の授業公開を行った。
参観者が少ないことが課題。延べ 50 人を目標としている。

2 安全安心で魅力ある学校づくり

(1) 規範意識

ア 遅刻に関して詳細は生徒指導主事から報告する。

一昨年度から昨年度にかけては 25% 減で改善することができたが、昨年度から今年度にかけては改善はしているものの、削減率が緩やかになっている。

イ スクールカウンセラー

2 週間に 1 日、水曜日にスクールカウンセラーを配置しており、生徒の相談を聞き、担任に報告し、支援計画を作成するよう依頼している。

(2) 健康管理・安全衛生

ア 大清掃の回数を増やした。

定期考査前に大清掃を行い、厳正な考査の意識づけを行っている。
成果検証はこれからである。

(3) 生徒会活動

ア 校外清掃活動

10 月、3 月に行う。10 月はすでに実施しており、200 名以上のクラブ員の参加があった。

部活動の活性化

クラブ加入率は全校生徒の 45% であり、昨年より若干ではあるが増加している。

3 自立自己実現

(1) キャリア教育

ア インターンシップの参加者は 50 名を目標としていた。

17 名の参加で留まった。生徒への意識づけが課題である。

(2) 資格取得

ア 資格取得指導

担当者から詳しく説明する。

第二種電気工事士について、指導にたけていた教員が転出するなど、さまざまなマイナス要因が重なり、合格者が半減した。卒業するまでに取得できるよう指導を続ける。

(3) 進学希望生徒支援

- ア 大学進学専科向け教育課程
別途説明する。

(4) 校長マネジメント推進事業

- ア 小型人工衛星の打ち上げに参画する。
昨年度、大阪府教育委員会から 235 万円の予算がつき、人工衛星を追尾するための無線機を校内に設置した。

4 地域連携

(1) 中高連携

- ア 中学校教員向け施設学校見学

8月5日に教員の実習体験を実施し、参加者は5名であった。

内容の提示方法、時期を検討し、多くの中学校教員が参加できるよう改善する。

実習体験

中学生対象の実習体験を10月に実施し、100名以上の参加があった。

インターネットでの申込みも可能としたが、人数は例年並みであった。

オープンスクール

11月16日(土)に事前申し込み不要で、実施する。クラブ公開を含む。11月6日に各中学校向けの案内を送付する予定である。

(2) 地域貢献

- ア 課題研究の充実

アルミ製朝礼台を製作し、茨木市立庄栄小学校、茨木市立養精中学校、大阪府立摂津支援学校に贈る予定である。

茨木市のイルミネーション制作協力を行う。

関西サイクルスポーツセンターの事業へ参画する。

すべての項目について課題研究の時間を活用し、順調に進んでいる。

課題研究発表会について他校との連携を検討中である。

以上で報告を終わる。

(委員長) 11月16日のオープンスクールは事前申し込みなしであるが案内などはどうなっているのか。

(校長) ポスターを送付しており、11月6日にも今後の学校公開の日程を中学校に送付する。

(委員長) 確かな学力について、習熟度別授業を行った後、クラス替えはないのか。

(教頭) 第1回目の考査でクラス分けをした。途中の交代について余地は残しているが今のところはない。

(委員長) 成績が良ければクラスが上がる、悪かったらクラスが下がる、という形にしないと効果が少ないのではないか。

(教頭) 下がってしまった生徒のモチベーションを上げることは非常に困難である。基礎を中心とした授業を行っているクラスでは少ない人数で授業をしており、個別対応することができる。上がることは認めても、下がるほうは避けたい。クラスは30人程度と10人程度に分けている。全体の検証はまだであるが、基礎のクラスの生徒の学力は確実に上がっている。

(委員長) 授業公開であるが、どのような期間を設定して行っているのか。見学したい授業を希望

することができるのか。

(校長) 6月と10月末から11月初めにかけて各3週間の期間を設けている。見学したい授業を公開するのではなく、公開する授業時間に授業のない教員が見学に行く形である。また、校長または教頭がすべての教員に対して1回は授業を見学している。

(委員長) 授業を見学した後、紙面で感想を残すべきではないか。大変であると思うが行っていただきたい。

(委員長) 資格について、教員が入れ替わり、合格率が下がったとあったが指導のシステムが確立されていないのではないかと。

(校長) 人事異動について学校の希望どおりにならない場合がある。システムの脆弱さは確かである。教員個人の力に頼っていたのが実際である。また、年度によって生徒の資格取得に関する意識も異なり、本年度の生徒は意識を高めることが困難であった。

(委員長) 地域連携について、実習体験は100人とあるが、どのような人が来たのか。

(電気系主任) 地域の中学生である。また、保護者の参加も20人程度あった。

(委員長) 中学生100人をどのように実習体験させたのか。

(電気系主任) 14のテーマを作り、中学生に希望を募り、学校で振り分けを行った。

(委員長) 実習体験に来た生徒がどのくらい入学するのか統計は取っているのか。

(校長) 入学後にアンケートを行っている。

(委員長) 人数を増やす工夫はしているのか。

(電気系主任) 学校ホームページからエントリーできるようにした。近隣の中学生の利用者はなかったが、大阪市内や守口市の中学生からの応募があった。

(委員長) 学校ホームページは重要であると感じるがこちらの工夫も聞かせてもらいたい。

(校長) 頻繁に情報発信している。

次の議題であるが順番を変えて協議を行う。

(4) 平成24, 25年度生徒指導の状況等について

(生徒指導主事)

暑い時期にカッターシャツを脱ぎTシャツで授業を受ける生徒が増えている。

1年生に懲戒処分を受ける生徒が多い。中学校時代からの悪い習慣を高校でも続けてしまっている。

自転車のステッカー指導を重点項目とした。盗難、放置された自転車がみつかる。

集会の態度が良くなっており、生徒をほめている。

廊下、ロッカー室に落ちているごみが減っている。

遅刻指導対象者について、昨年と比べると、増加傾向である。昨年度までは登校日の4割を超えて遅刻した生徒を遅刻指導の対象としたが、今年度は3割とした。

多くの事案があり、協力体制がとれず教員が疲弊している。

(委員長) 遅刻指導はどのように行っているのか。

(生徒指導主事)

説諭し、反省文、課題を課している。また、早朝登校をさせている。

遅刻指導対象となる生徒は学校を辞めるケースが多い。

(2) 工学系大学進学専科について

(校長) 大阪府立の工科高校は「高大連携」「技能養成」「地域産業との連携」の3つの項目について、各校の強みを活かし、取組みの重点化を行っていく。今後、9つの工科高校が3つのタ

イブに分かれていくことになる。本校は高大連携校として、現在の3つの系に加え、新たに工学系大学進学専科を設置する。3年生で進学クラスを独自に設置していたが、1年生から進学クラスを設けることになる。1クラス40人を単独募集する。

工学系大学進学専科の特色は3点ある。1点目は大学で学ぶ内容の先取りを行う。専門教科を学び、大学での勉強に繋げる。2点目は普通教科、特に数学、理科の授業の時間数を増やす。3点目は高大連携の授業である。大阪工業大学と連携を結び、土曜日や、長期休業を活用し大学で授業を受ける計画を進めている。国公立大学を含めて理工学系大学への進学100%をめざす。私立大学では、指定校推薦の実績から十分進路保証することができる。現在、中学校の進路希望調査の結果では40名の募集に半分程度の希望者が出ている。今後の広報活動で中学校の教員、生徒、保護者に理解を求める。

(委員長) 大学連携で受けた授業で生徒にとって有利になる点はあるのか。

(校長) 3年次の大学連携の授業では大阪工業大学で授業を受け、大阪工業大学に進学した際、その単位が認められるというようなことも可能である。単位数については未定である。

(委員長) 大学進学専科も前期入試1回だけなのか。

(教頭) 1回だけである。定員が割れた場合、2次募集はある。

(校長) 本校教員が中学校へ説明に行っている。中学校の教員から多い質問は、回し合格についてである。工学系大学進学専科40名の募集で不合格になった生徒は第2志望に総合募集の専科を書いたとしても、総合募集の専科を受検した生徒に含め選抜することはない。総合募集の専科の志願者が募集定員に達していない場合、その人数に対して第2志望を記入した生徒の中で選抜を行う。

(3) 授業アンケートについて

(教頭) 生徒が自分の受けている教員に対して行ったアンケートである。質問項目は生徒自身の取組や授業内容の理解、教員の授業展開など9項目ある。数学、理科の結果は学校全体の平均と比べ、低い数値となっている。生徒にとって数学、理科は難しいと感じていることがわかる。家庭科の数値も学校全体と比べ低くなっている。家庭科は1年生のみ行っている授業であり、入学してきた生徒が高校での授業理解が困難であるということがわかる。

(委員長) このアンケートをどのように活かすのか。改善計画、フィードバックはあるのか。

(教頭) 今回のアンケートは1回目であり、2回目もある。1回目の結果を見て、各教員が自分の授業を見直し、2回目に改善が見られたか確認することになる。

(校長) 改善計画の提出は義務付けていない。各教科に結果を報告しており、教科の会議で改善すべき点を話し合うよう指示している。

(4) 平成25年度の進路状況等について

(進路指導主事)

3年生の進路希望調査を行い、75%の生徒が学校紹介の就職を希望した。

現在、大学についてAO入試の結果が出ている。

就職希望者の1次試験の内定率は60.1%であった。現在では86.0%となっている。

昨年と比べ鉄道関係の希望者は少なく、重工業関係の希望者が多かった。

(委員長) 昨年と比べ現在の状況は良いのか。

(進路指導主事)

昨年よりも良くなっている。学校経営計画では1次試験の合格率を60%としており、若干ではあるが超えることができた。

(委員長) 昨年度、内定率100%となったのはいつか。

(進路指導主事)

1月31日である。本年度は早期に達成したい。

(6)平成25年度資格取得中間報告

(首席)平成24年度については年度末の結果であり、平成25年度の結果は中間報告である。

(委員)電気工事士第二種について半減しているが、後期に増える可能性はあるのか。

(首席)増えることはない。電気系の2年生に全員受験をさせており、不合格であった生徒は3年生で再受験するよう指導している。

(7)平成25年度クラブ等実績について

(教頭)本年度も自転車競技部が活躍し、インターハイ、国体ともに3位入賞した。JR茨木駅前に横断幕を設置し地域の方にも入賞した生徒を讃えていただいた。

電気系について高校生ものづくりコンテスト大阪大会で5位入賞であった

(委員)茨木駅に横断幕を掲げるのに費用はかかったのか。

(校長)無償であった。

(委員)自転車競技の活動場所はどこなのか。

(教頭)学校から能勢まで自転車で走っている。校内でトレーニングする場合はローラーに自転車を乗せ、移動しないように走っている。また、河内長野の関西サイクルスポーツセンターや岸和田の競輪場を利用している。

(委員)外での活動が多いが事故などが起きた場合の保険に加入しているのか。

(教頭)加入している。過去にも転倒事故で脱臼、骨折した生徒がいる。

(8)質疑応答

(委員)小型人工衛星の打ち上げに参画することは数名の生徒が行っているのか。

(校長)主にクラブ活動で行っている。和歌山大学の支援を受け、宇宙までは到達しないが300mまで上昇するロケットの打ち上げ実験を行う予定である。

閉会の挨拶

(校長)授業公開について、希望者のみ行っていたことに対する意見を重く受け止め、全教員が公開するよう改善する。

第2回の授業アンケートが終われば、各教科から改善計画の報告をするよう指示する。

事務連絡

(教頭)第3回学校協議会の希望日時を調整するため書類を郵送する。